広報 すぎなみ

Suginami

支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

10/15
平成30年（2018年）
No.2239

杉並のおいしい野菜 すくすく育っています。

閑静な住宅街の中で、オアシスさながらに緑が茂る一角があります。懐かしい土の匂い、作物のみずみずしさに包まれたこの場所は、代々続く農家・宇田川泰伸さんの畑。元ラガーマンと聞いて納得のたくましい腕で、野菜を丁寧に手入れする姿は生き生きとしています。都市で農業を営むということ、杉並の農業を共に盛り上げる仲間のこと、農業への熱い思いを語っていただきました。

特集

すぎなみビト

杉並区グリーンクラブ

宇田川泰伸

Contents ―主な記事―

7｜読書週間　8-9｜すぎなみフェスタ2018　10｜なかま集まれ！　16｜郷土博物館特別展　愛新覚羅浩展

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ｜ 3312-2111（代表）FAX 3312-9911（広報課直通） ｜ 区ホームページ：http://www.city.suginami.tokyo.jp/ ｜ 発行：杉並区 ｜ 編集：広報課

広報すぎなみは月２回（１・15日）発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

すぎなみビト × interview 杉並区グリーンクラブ

宇田川泰伸

プロフィール：宇田川泰伸（うだがわ・やすのぶ）　49歳。杉並区宮前で代々続く農家に生まれる。高校から社会人までラグビーに励み、引退後、家業に携わる。現在、杉並区グリーンクラブの会長として、若手農家仲間とともに杉並の野菜を普及させる活動に尽力

人との距離の近さこそが、杉並で農業をする楽しさです。

―宇田川さんの畑ではどんな作物を作っているのですか？

今、ビニールハウスの中で芽を出しているのは水菜。あとは大根も育ってきましたね。畑の入り口の脇で食べ頃を迎えているのが、万願寺唐辛子。こっちに生えているモロヘイヤはもうそろそろ終わりかな。なにしろ住宅街にある小さな畑ですから、作付けできる野菜の数も限られるので、うちの畑は基本的に季節の野菜しか作りません。夏の野菜は夏に、冬の野菜は冬に、というのがこだわり。無農薬・減農薬もポイントで、化学合成農薬と化学肥料を削減して作られた農産物を都が認証する「東京都エコ農産物認証制度」の認証を受けている野菜もあります。例えば、これから収穫シーズンを迎えるキャベツやブロッコリー、小松菜、ホウレンソウなどがそうです。

―農家に生まれた宇田川さん。幼い頃から農業に興味があったのですか？

いえ、農家を継ぐとはまるで想像していませんでした。高校・大学・社会人と、ずっとラグビー一筋で生きてきたんです。でも、けがをきっかけにラガーマンとしては30歳を前に現役引退することになって。ラグビー人生を終えたことで会社も退職して、次は何をしようかなと考えていたんですよ。そうしたらおやじが、「それなら畑を手伝え」と。それが農業人生の始まりです。

―なるほど。そこから野菜作りを覚えていかれたのですね。

背中を見て覚えろ、というやつでしょうか、おやじは僕に何も教えませんでしたね。最初の3年くらいは「肥料をまいておけ」と言われれば肥料をまき、「草を抜いておけ」と言われれば草を抜く。指示されたことをこなすだけ。自分で野菜を作っているという実感は今ひとつ持てませんでした。

ある日おやじから「そこのビニールハウス1棟、自分でやってみろ」と言われて。突然そんなことを言われても、何も教わっていないのでびっくりしますよね（笑）。でも、びっくりしながらも、トマトを始めてみました。種苗会社の研修会や本で一応自分なりに勉強はしていました。あとは作りながら農家仲間にアドバイスをもらったり調べたりしながら、手探りでトマトを作り上げ、初めて直売所に出してみたんです。そうしたら、食べてくれたお客さんが「おいしかったよ」と言ってくださって。自分で野菜を作ったという実感が初めて持てて、「よし、真剣に農業と向き合ってみよう」とスイッチが入りました。

―農業を仕事にしてよかったと感じること、大変なことを教えてください。

農業のいいところは健康的なことかな。年齢もありますが、体力面ではラガーマンだった時よりもキツイです（笑）。それでも、朝早く起きて、汗を流して土をいじって野菜の手入れをして、日が沈んだら仕事を終えるというサイクルは、心身ともにすごく健康だと実感しています。一方で大変なのは、やはり自然相手の仕事だということ。野菜は日々観察して手入れしていればある程度先の予測ができるのですが、天候に関しては本当に難しい。とくに近年は想像を超える気象現象が多いので、なおのことです。

―宇田川さんは、杉並区グリーンクラブの会長も務めていらっしゃいますね。

おかげさまで35期目の会長を務めさせてもらっています。杉並区グリーンクラブは杉並区内で農業に従事する若手農業者の団体で、僕のような後継ぎ世代を中心に35名の会員が所属しています。区役所をはじめ、各所で定期的に開催されている即売会や農業祭に参加したり、農業の研修会を開いたり、さまざまな活動をしています。

―団体として活動する良さはどのような点でしょうか？

作っている作物の違いや地域の垣根を超えて交流できることでしょうか。野菜の農家もいれば、花卉（かき）の農家もいるし、造園も対象なので造園業の人もいる。そういった仲間と交流しながら情報交換できる場は本当に貴重で、例えば新しい野菜にチャレンジする時、経験のあるメンバーにアドバイスをもらうこともできます。自分の知識を伝えることもできます。また、個人で活動の場を広げることは難しいけれど、団体としてならできることもたくさんあるのがいいですよね。

―杉並区で農業。都市部ならではの特徴はありますか？

人との距離の近さですね。住宅街にある畑なので、作業している横をいろんな人が通っていくのが面白いです。近くに保育園があって、散歩で子どもたちがよく通りかかるのですが、「ふうん、こんなふうに実がなるんだねえ」とか「アリがいるー！」なんて大騒ぎ。子どもだけじゃなくて大人も「へえ～」と珍しそうに野菜の成長を見ていきます。隠し事はできない、草むしりが行き届いていないのもすべて公開される、透明性の高い“見える農業”です（笑）。

―家の近所で作っている野菜なら新鮮さもひとしおですね。

人通りがあるからこそ畑のそばでの直売が成り立つのも、都市型農業のメリットだと思います。朝採れの新鮮な野菜のおいしさは格別ですよ。うちは畑に直売所があるので、作業をしながら、買いにきてくれたお客さんと「この野菜はこの調理法がおいしい」なんて会話するのも楽しいです。畑の様子がよく見えて、作り手と消費者が顔を合わせられるって、究極の安心安全ではないでしょうか。

―宇田川さんが農家として、これから挑戦したいことはありますか？

挑戦とは少し違いますが、もっと杉並の農業を知ってもらうために何かできることはないかな？と考えています。即売会をしていると「杉並で野菜が作れるの!?」と驚きの声がいまだに聞こえてくるんですよ。まだまだ認知度が低いんだなと思い知らされます。ですからグリーンクラブで力を合わせて、自分たちよりも若い世代を巻き込みながら、より一層活動を広げていきたいと思います。

―今回の記事で「杉並の野菜を食べてみたい！」と思った方にメッセージをください！

これからは冬野菜がおいしい季節です。ぜひ味わってみてください。僕個人としては、聖護院大根をおでんにするのがイチオシです（笑）。もし杉並の野菜を食べてみたいと思ってくださったら、来月、桃井原っぱ公園で開催される「農業祭」に遊びに来てください。野菜だけでなく、杉並産の花や苗木も販売します。買い物を楽しみながら、杉並の農業のこと、生産者や畑のことを知ってもらえると、僕たちはとても嬉しいです。

杉並産野菜を買うなら農産物直販マップをチェック！

ふれあい農業すぎなみ　農産物直販マップでは、区の生産者や新鮮採れたて野菜を購入できる場所を紹介しています。産業振興センター（上荻1-2-1インテグラルタワー2階）、区民課区民係、区民事務所等に置いてあります。

こちらからもチェック！

http://www.city.suginami.tokyo.jp/guide/shigoto/nougyou/1014133.html

知っていますか？ 野菜の宝船と花のオブジェ

毎年、すぎなみフェスタと同時に開催される杉並区農業祭。その見どころの一つが、杉並区グリーンクラブによる野菜の宝船と花のオブジェです。メンバーにとっても1年に1度のビッグイベントで気合いが入ります。白菜やキャベツといった大物野菜で土台を作り、里芋などを中にぎっしり詰めて、幅数メートルの船を作り上げ、最後に長ネギを並べて作った帆を立てて完成です。

花のオブジェは、壁面に色とりどりの鉢花を配置し、花の文字を作り上げ、農業祭に来場される方を出迎えます。宝船、花のオブジェで使われた野菜や花は、来場者に「宝分け」として配られます。「宝分け」には整理券が必要です。縁起の良い野菜や花をゲットしに、ぜひ訪れてみませんか？

※整理券は、11月4日(日)正午から配布（なくなり次第終了）。

杉並区農業祭・すぎなみフェスタ2018へ行ってみよう！　詳しくは8－9面へ

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。